



Dr.Web for Unix Mail Servers

集中管理モードの設定方法

株式会社 Doctor Web Pacific

2012年3月5日



目次

1. はじめに	3
2. 注意事項	3
3. 前提条件	3
4. ES モード切替手順	4
4.1 CC の設定	4
4.2 Dr.Web Mail Servers を ES モードに切り替える	4
4.2.1 /etc/drweb/agent.conf の【Enterprise Mode】セクションの設定変更	4
4.2.2 /etc/drweb/monitor.conf の【Monitor】セクションの設定変更	5
4.2.3 Mailed の drweb-monitor サービスを再起動する	5
4.3 CC でクライアントを承認する	5
4.4 Dr. Web Mail Servers の設定内容の登録	7
4.4.1 Mailed の drweb-monitor サービスを停止する	7
4.4.2 CC で設定を確認する	7
4.4.3 Mailed で drweb-monitor を起動します。	7



1. はじめに

本書では、Dr.Web for Unix Mail Servers (以下 Dr.Web Mail Servers) を Dr.Web Enterprise Server (以下 ES サーバ) に Agent として接続する為の手順を説明しています。各機能に関する詳細は、各製品のマニュアルを参照して下さい。

本書で紹介する手順は、Dr.Web Mail Servers を ES サーバに Agent として接続する手順の一例です。本手順ではない登録方法もございますので、参考としてお読みください。

2. 注意事項

Dr.Web Mail Servers を ES サーバに接続する (集中管理モード。以下 ES モード) よう設定すると、Dr.Web Mail Servers のライセンスファイルを読み込まず、ES サーバのライセンスファイルを参照します。もし、ES サーバのライセンスファイルに Dr.Web for Unix Mail Servers のライセンスが含まれていない場合は、正常に動作しません。ライセンスが含まれているかをご確認の上実施してください。

ES モード設定後は、Dr.Web Mail Servers の設定変更は ES サーバの Web Interface 画面 (Control Center。以下 CC) からの設定変更が基本となり、ローカル (Unix、もしくは Linux) で Dr.Web Mail Servers の設定変更を行った場合は、手動で ES サーバに設定を反映させる必要があります。

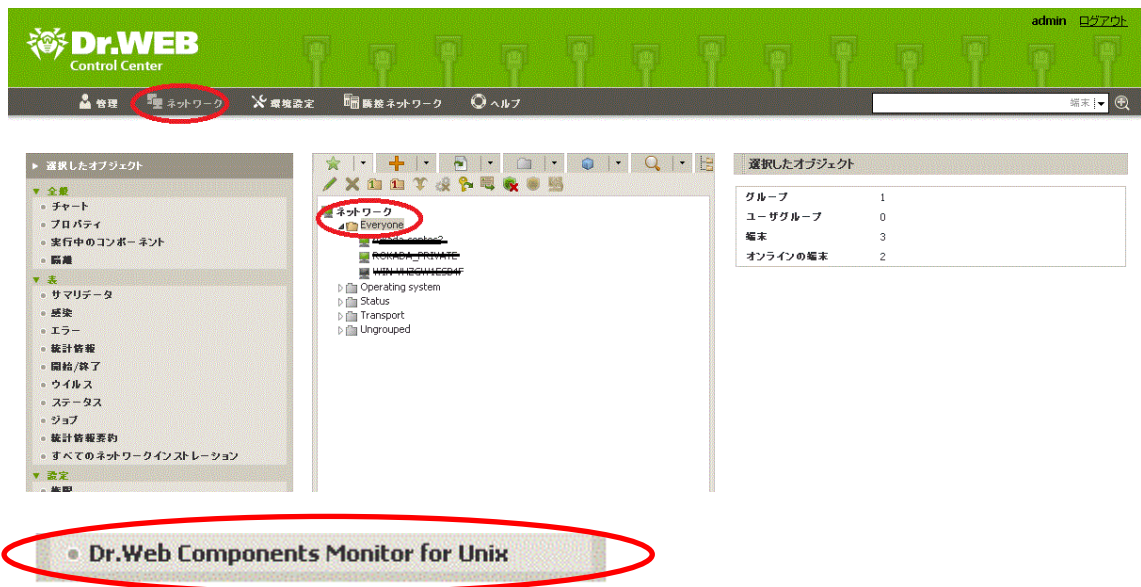
3. 前提条件

本書にて、「Maild の」とある場合は、Dr.Web Mail Servers がインストールされている Unix、もしくは Linux サーバ上で Dr.Web Mail Servers の設定やサービスの操作を行います。「CC の」とある場合は、CC の設定を変更します。「ES サーバの」とある場合は、ES サーバをインストールしたサーバ上で操作を行います。

4. ES モード切替手順

4.1 CC の設定

CC の上部メニューから「ネットワーク」を開き、「Everyone」を選択し、左側のメニューの一番下にある「Dr.Web Components Monitor for Unix」をクリックします。



画面上部に「ネットワーク > Everyone > Dr.Web Components Monitor for Unix」と表示されたのを確認し、表示された画面の「モニター別の実行アプリケーション一覧」で「Daemon」と「Maid」にチェックをいれ、「保存」ボタンを押します。



4.2 Dr.Web Mail Servers を ES モードに切り替える

4.2.1 /etc/drweb/agent.conf の【Enterprise Mode】セクションの設定変更

Maid の/etc/drweb/agent.conf(Linux の場合) をエディタで開き、【Enterprise Mode】セクションの下記項目を設定します。

```
UseEnterpriseMode = yes
```



```
ComputerName = hostname
PublicKeyFile  = /path/to/drwcsd.pub
ServerHost = 10.10.10.10
ServerPort = 2193
```

UseEnterpriseMode は ES モードの ON/OFF 設定です。デフォルトは”no”です。
ComputerName には、筐体のホスト名を入力してください。
drwcsd.pub は接続する ES サーバの公開鍵ファイルです。Maild のインストールされたマシン上にコピーしておいてください。
ServerHost は ES サーバの IP アドレスかホスト名を入力します。
ServerPort のデフォルト値は 2193 です。エンタープライズサーバ側で変更してなければデフォルト値を使用してください。

4.2.2 /etc/drweb/monitor.conf の【Monitor】セクションの設定変更

Maild の /etc/drweb/monitor.conf の[Monitor]セクションの下記を変更します。

```
UseEnterpriseMode = Yes
```

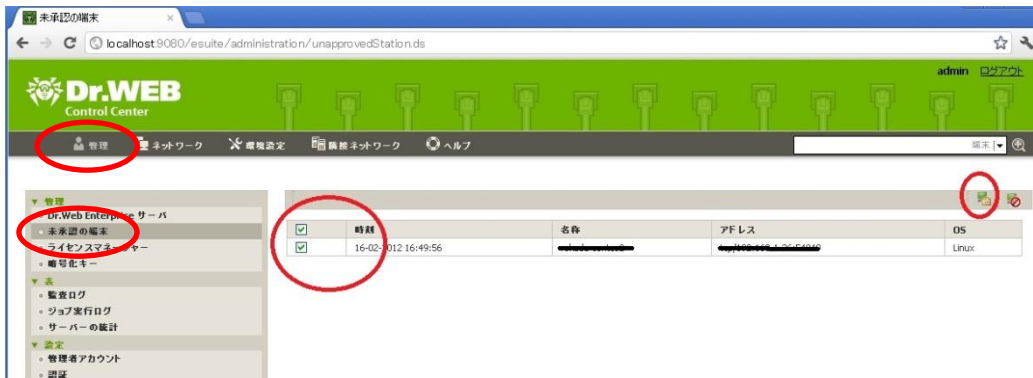
4.2.3 Maild の drweb-monitor サービスを再起動する

monitor の再起動により、agent が起動され ES サーバにアクセスを行います。
※ES モードが ON の場合、設定情報を全て ES サーバから受け取る為、agent は全てのコンポーネントの前（ただし monitor より後）に起動している必要があります。

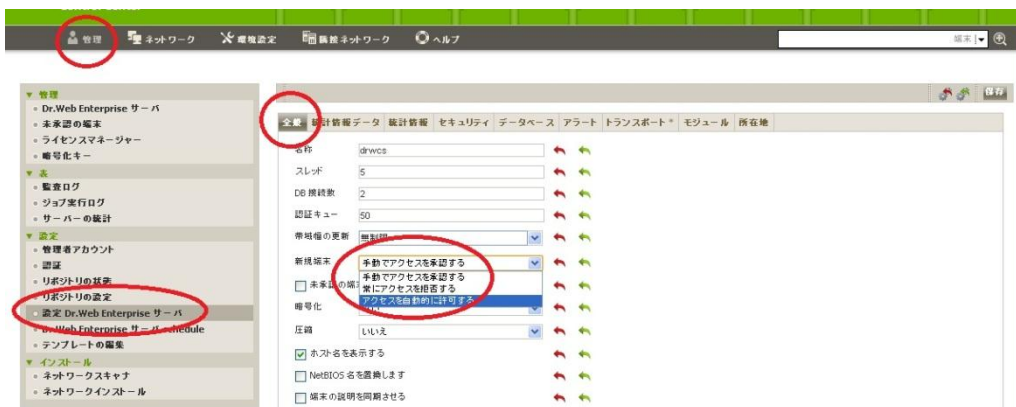
```
#service drwebd stop
#service drweb-monitor restart
#service drweb start
```

4.3 CC でクライアントを承認する

クライアント（今回の場合は Maild）側から ES サーバへの初回アクセス時は、クライアントは承認待ちの端末としてキューイングされます。
CC を開き、「管理」画面から「管理」>「未承認の端末」に表示されたリストから該当するクライアントを選択し、「承認」アイコンを押して承認します。

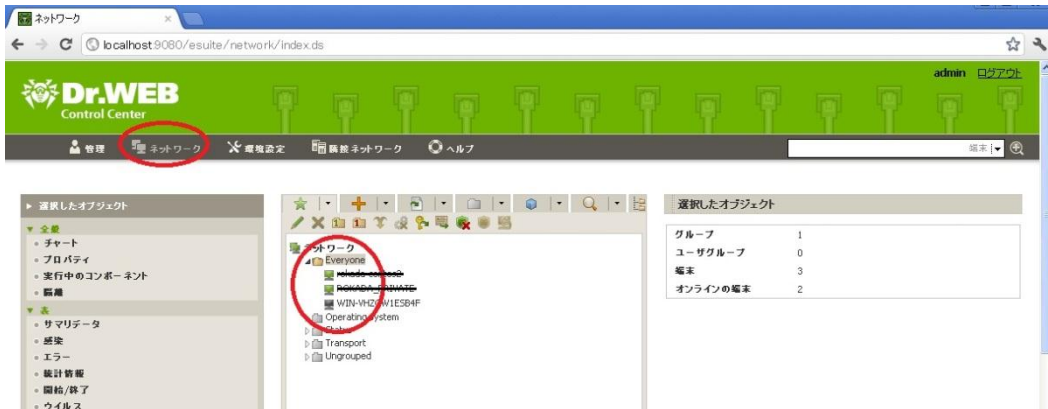


※CCの「管理」画面から「設定 Dr. Web Enterprise サーバ」を開き、「全般」タブにある「新規端末」の設定を「アクセスを自動的に許可する」に設定して「保存」すると、新規承認が必要な端末を自動承認するようになります。多数のクライアントを登録、管理するような場合は、自動承認に設定することで承認の手間を省くことができます。この設定変更を行った場合は、ESサーバの再起動（OSではなくESサーバのプロセスの再起動）後に有効となります。設定を保存後ESサーバの再起動を促す画面が表示されます。



承認後、正常に登録されたことを確認します。

「ネットワーク」画面で今回追加した新しいクライアントが追加され、アイコンが緑色になっていることを確認してください。



4.4 Dr. Web Mail Servers の設定内容の登録

ES サーバに Agent として登録した Dr.Web Mail Servers の設定内容を ES サーバに登録します。

4.4.1 Maild の drweb-monitor サービスを停止する

```
#service drweb-monitor stop
```

Dr.Web Mail Servers の設定(config)を ES サーバに転送します。root では設定転送はできません。インストール時に作成された drweb ユーザで実行します。

例)

```
#sudo -u drweb /opt/drweb/drweb-agent -e MAILD
```

4.4.2 CC で設定を確認する

CC の「ネットワーク」画面で maild のクライアントステーションを選択し、画面左のメニューから「設定」>「Dr.Web MailD for Linux」をクリックします。設定が反映されていることを確認します。

4.4.3 Maild で drweb-monitor を起動します。

例)

```
#service drweb-monitor start
```

以上